



三島通庸(左)と三島弥太郎(右)の肖像画 作:長原孝太郎

私のまちの
近い
世界遺産

三島親子の肖像画
～社会に功績を残した親子～

1月5日号の広報なすしおばらでは、三島通庸みちつねについて紹介しました。今回は、三島通庸とその長男、三島弥太郎やたろうに関する文化財を紹介します。

那須野が原開拓の先駆者である三島通庸。彼が亡くなった後、三島農場の移住人を中心に寄付が集まり、明治39年(1906)に三島神社が創建され、大正2年(1913)には画家の長原孝太郎ながはらこうたろうの肖像画が神社に奉納されました。通庸亡き後、三島農場の経営は、長男の三島弥太郎に引き継がれます。通庸の子といえば、現在放送中の大河ドラマ「いだてん〜東京オリムピック」に登場する、日本人初のオリンピック選手の一人である三島弥彦やひこが有名ですが、長男の弥太郎も日本社会に多くの功績を残した有名人です。

弥太郎は、貴族院議員を務めながら、横浜正金銀行の頭取、第8代日本銀行総裁を歴任し、市中銀行の預金金利協定の成立に尽力します。彼が亡くなった3年後の大正11年(1922)には、父の通庸と同様に、長原孝太郎により描かれた肖像画が三島神社に奉納されました。通庸と弥太郎の肖像画は2枚とも現存しており、市の指定有形文化財になっています。(現在は那須野が原博物館に所蔵)

日本社会や那須塩原市に多大な功績を残した三島家。三島地区を訪れる際にはぜひ彼らの思いを感じ取ってみてください。

お知らせ

日本遺産認定記念講演会
「明治貴族が描いた未来
～那須野が原開拓浪漫譚～」

- ▶とき 3月2日(土) 午後1時30分～
- ▶ところ 乃木温泉ホテル(下永田1-993-11)
- ▶内容 基調講演、パネルディスカッション
- ▶定員 200人 ※定員を超えた場合は抽選。
- ▶参加費 無料
- ▶申込方法
郵便番号、住所、氏名、年齢、性別、電話番号、同行者数、同行者氏名を明記し、はがき・FAX・メールで次に申し込む
◎下野新聞社営業局業務推進部
「日本遺産 那須野が原」係
〒320-8686 宇都宮市昭和1-8-11
FAX 028(625)1132
✉gyosui@shimotsuke.co.jp

※後日、聴講券が送付(同行者がいる場合は代表者に送付)されます。

- ▶申込期限 2月22日(金) ※当日消印有効。
- ▶問い合わせ 下野新聞社営業局業務推進部
☎028(625)1104 ※平日の午前9時～午後5時30分。